

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

1. 基本情報

■事業の担当課	教育部子育て支援課		■担当係	育児支援係
■評価事業名称	放課後児童健全育成事業(委託)			
■事業開始年度	平成3年度			
■評価事業コード	400700 - 122	■会計区分	一般会計	
■総合計画での位置づけ	■政策	01 子育てと医療・福祉の充実した明るく健やかなまちづくり		
	■基本施策	01 子育て環境の充実		
	■施策	01 子育てと仕事の両立の支援		
■事業の類型	05 ソフト事業(任意)		■政策・業務区分	政策
■法令の根拠区分	法令に定めはあるが任意の自治事務			
■法令等の名称	子ども・子育て支援法			
■関連計画の名称	北上市子ども・子育て支援事業計画			
■事業の目的と概要	放課後児童の健全育成。放課後児童に遊びを与え健全育成を図るための事業の委託。			

2. 細事業の活動実績情報

細事業コード	細事業名称	事業の対象	平成 29 年度事業計画	平成 29 年度事業量実績
01	放課後児童健全育成事業(委託)	放課後児童	実施数 14学童保育所(33支援の単位) 対象児童数 1,241人	14学童保育所(支援の単位32) 児童数 1,320人

3. 投入コスト情報

(単位: 千円)

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	備考
直接事業費	124,217	186,431	197,531	268,164	
人件費	463		1,126	2,823	
その他(公債費・減価償却費等)					
フルコスト	124,680	186,431	198,657	270,987	

4. 評価指標等の状況

指標コード	指標名	26年度	27年度	28年度	29年度	指標の説明
	入所児童1人あたりコスト	115.8千円	158.9千円	160.0千円	205.3千円	フルコスト/入所児童数
	児童クラブあたりコスト	4,796千円	6,905千円	6,850千円	8,468千円	フルコスト/児童クラブ数
	児童クラブ数	26クラブ	27クラブ	29クラブ	32クラブ	放課後児童健全育成事業を実施した児童クラブ数

事務事業事後評価シート[平成29年度事業]

児童クラブ入所児童数	1,077人	1,173人	1,241人	1,320人	放課後児童健全育成事業の対象児童数
------------	--------	--------	--------	--------	-------------------

5. 事後評価(「政策」事業類型5・6のみ)

■目標達成状況

- ☒ A. 順調
☐ B. 概ね順調
☐ C. 遅れている

達成状況の分析

日中保護者が家庭にいない児童の放課後や長期休暇において、遊びや生活の場を提供する事業を、市内の全小学校区において実施した。

問題点・課題等

保育ニーズの高まりに対し、放課後児童支援員が不足している学童保育所がある。

1. 直接的な受益者の範囲

- ☐ 不特定多数に及ぶ
☒ 特定されるが多数に及ぶ
☐ 特定少数に限定される

2. 国・県・民間との競合関係の有無

- ☐ 類似の事業はない
☒ 類似の事業はあるが競合はない
☐ 類似の事業があり競合する

3. 事業廃止の影響

- ☒ 大きな不利益やリスクが生じる
☐ ある程度の不利益やリスクが生じる
☐ 不利益やリスクは小さい

4. 市民生活・企業活動への影響

- ☒ 市民生活・企業活動の維持に不可欠
☐ 市民生活・企業活動の維持の向上に必要
☐ 市民生活・企業活動の維持の向上への影響は少ない

5. 事業廃止の影響を受ける受益者の割合

- ☒ 1. で選択した人の大多数(70%程度)
☐ 1. で選択した人の半分程度(50%程度)
☐ 1. で選択した人の少数(30%程度)

6. 事業へのニーズの変化

- ☐ ニーズが高まっている
☒ ニーズは変わらない
☐ ニーズが低下している又は合致しない

7. 施策の改善需要度(市民意識調査)

- ☒ 順位が高い
☐ 順位が中程度
☐ 順位が低い

8. 施策の優先度(市民意識調査)

- ☒ 順位が高い
☐ 順位が中程度
☐ 順位が低い

9. 他市町村に比較しての優位性

- ☐ 先進的またはユニークな事業である
☒ 他と同程度の事業である
☐ 遅れている事業である

10. 実施主体の代替性

- ☒ 民間委託等の拡充は難しい
☐ 民間委託等の拡充が十分に可能
☐ 全部委託や実施主体の移行が可能

11. 経済性・効率性の向上

- ☒ 今以上の効率化や改善は難しい
☐ 効率化や改善を図ることは十分に可能
☐ 効率化や改善の余地が大きい

■事業の見直し方策(評価項目2.4の補足説明含む)

保護者が家庭にいない学童の増加により保育ニーズは高まっており、拡充が必要な事業である。

■今後の方向性

- ☒ I. 拡充
☐ II. 継続
☐ III. 縮小
☐ IV. 廃止・休止
☐ V. 完了